

ナショナルバイオリソースプロジェクト
中核的拠点形成プログラム（オオムギ）平成21年度運営委員会議事要旨

日時：平成21年8月3日 13:00から16:00

場所：岡山大学資源生物科学研究所 小会議室

参加者：

委員長	掛田 克行	三重大学 生物資源学部
代表者	佐藤 和広	岡山大学資源生物科学研究所
	木原 誠	サッポロビール（株）（オオムギ育種責任者）
	小松田 隆夫	農業生物資源研究所
	柳沢 貴司	近畿中国四国農業研究センター
	辻本 壽	鳥取大学農学部
	山崎 由紀子	国立遺伝学研究所
	武田 真	岡山大学資源生物科学研究所
	最相 大輔	岡山大学資源生物科学研究所
オブザーバー	平賀 勸	文部科学省ライフサイエンス課 担当官
NBRP 事務局	佐藤 清	NBRP 事務局長
	平田 裕美	NBRP 事務局員
欠席	加藤 鎌司	岡山大学農学部
	村田 稔	岡山大学資源生物科学研究所
	前川 雅彦	岡山大学資源生物科学研究所

配付資料：

資料1 中核的拠点整備プログラム事業計画書

資料2 平成20年度成果報告書

資料3 平成21年度交付申請書

資料4 交付決定通知書

資料5 補助金概要説明資料

参考資料1 遺伝研データベースアクセスログ

参考資料2 科研基盤（A）国際学術研究による収集状況

参考資料3 NBRP 新事務局案内

参考資料4 岡山大学資源生物科学研究所大麦・野生植物資源研究センター運営委員会議事要旨（7月30日開催）

参考資料5 NBRP Barley データベースの改善・改良案

議 事

出席者の自己紹介、研究代表者から挨拶があった。

報告事項

1. 平成20年度成果報告

上記配付資料のうち資料2によって平成20年度の成果報告を説明した。

2. 平成21年度事業計画申請内容

資料 1, 3, 4 によって平成 21 年度の事業計画申請内容を説明した。

3. 経費の補助金への移行にかかわる経過説明

資料 5 によって補助金への移行への経緯について説明した。

4. その他

参考資料として挙げられている遺伝研のサーバーへのアクセスログ数、7月に実施された科研国際学術によるウズベキスタンでの麦類収集内容、NBRP 新事務局の案内、岡山大学資源生物科学研究所大麦・野生植物資源研究センターの運営委員会の議事内容について報告があった。

協議事項

1. 課金システムの導入について

平成22年度から導入が求められている課金システムの具体的な内容について協議した。まずライフサイエンス課平賀担当官からNBRP事業の補助金移行に伴って、平成21年度中に見通しをつけるように求められていること、課金システムを導入しない場合は補助対象から除外される可能性のあることが示された。ただし、植物での課金システム導入はサルなどの大型リソースとは事情が異なるので、植物の事情に合った体制を導入することで調整中であることも補足された。議論の結果、輸送費については受益者負担とすることが可能で、国内については送料着払いで対応可能であること、海外については郵送の着払いがないことから、クレジットカードなどの決済が選択肢としてあることが示された。また、クレジットカードの決済システムとしてはPayPalの利用が、年会費等も不要で最も可能性が高いとみられた。着払いについては委員の中での異論はなく、クレジットカード決済についても反対意見はなかった。また、BACライブラリー等作成にコストのかかるリソースについては実費を上乗せして課金すること、課金してもリソースの権利関係に変化はないことが確認された。またNBRP事務局から、近日中（9月頃）に課金システムのガイドラインについて説明予定である旨報告された。

2. 今後の運営方向について

- ・運営委員会の構成員について：現在の12名の運営員の構成で妥当であることが承認された。
- ・リソース配付点数の拡大について：配付量の多いリソースの設定、初心者向けの使いやすいリソースの設定などユーザーの拡大に努める必要があると提案された。オオムギの特徴である形態的な変異を積極的にアピールして実験材料や教材としての利用拡大を図ることが提案された。
- ・リソースの内容について：遺伝研情報センター山崎委員からBarleyデータベースの改善・改良案が紹介された。その中の一部はすでにデータベースの機能として含まれており、紹介されたヒストグラムなどの機能も加えた方が良いとの意見があった。研究代表者から、今後データベースの充実を図っていく旨報告があった。特に遺伝子単離に関連するリソースの重要性が確認された。
- ・その他 今回の資料の取扱いについては内部資料扱いとすることが確認された。

以上

(書記 佐藤和広)